掲載日　　平成２７年７月１０日（金）

「長良川鵜飼」装束をプロデュース②

目　的：鵜匠装束の素材である三河木綿について、機織りの様子、染色の様子、綿の製造工程を学び、今後の作品製作に生かす。

日にち：平成２７年７月７日（火）

研修場所・内容：市川織布工場（蒲郡市鹿島町西郷）・三河木綿の織物・検反の見学

藤浜染工株式会社（蒲郡市三谷町九舗）・三河木綿の織物が染色・紡績の見学

名古屋モード学園（名古屋市中区）・装束のデザイン発想・決定

研修者：服飾デザイン科　３年　鵜匠装束プロデュース担当（８人）

市川織布工場

現在、蒲郡市に綿織物工場が約５０軒。MADE　IN　JAPAN の良さを打ち出し、質の高い綿織物を製造する工場がある。

藤浜染工株式会社

藤浜染工では市川織布工場で織られる糸を、先染めして提供する。

木綿とエステルでは、染める温度が違うことや、糸の染まり具合や、紡績する時の巻の強さ、色について等、とても細かい研究がなされ、糸ができることを知った。

240 巻の糸を釜で染める様子

名古屋モード学園

三河木綿のショップをリサーチして、鵜匠装束に使用できる手芸技法や三河木綿の縦縞、韓国の衣装などを発想源として、デザインを考えた。

＜生徒の感想＞

１年生の時、毛織物工場に研修で行きました。その研修を思い出し、比較して綿織物工場を見ることができました。染色は、糸から染める工程を間近で見ることができ、とても感動しました。綿織物を知り、洗練された鵜匠装束に、どのように三河木綿を取り入れ、鵜匠装束を製作していくのか、とても楽しみになりました。今後は、デザインを決定し、美しいパターンを考えていきたいです。